



女性林研なおかわの皆さん

女性林研なおかわ

大分県佐伯市旧直川村

設立年月	昭和59年4月
会員数	女性15名

WE LOVE forest! 林業研究グループ

■家庭とグループ活動を両立

女性林研なおかわの活動拠点である佐伯市旧直川村は、大分県の南東部に位置する自然豊かな場所です。メンバーは専業林家を含め、各家庭とも少なからず林業に関わっています。メンバーは、設立当初から家庭とグループ活動を両立させ、新たなことに次々と挑戦しています。

平成20年度のグループとしての売り上げは2000万円ほどで、6人が常勤で働いています。

彼女たちの活動拠点となっているのは、昭和52年に設立された「憩いの森キャンプ場」。旧直川村より依頼を受け、その経営を平成元年から行っています。平成11年には管理棟「ぱびよん」が新設され、無くてはならないものになっています。

■メンバー自ら木工品づくり

平成2年、キャンプ場に隣接した木工工房が設置されたのを機に、直川に古来より植林されてきた「直見スギ」を使った木工品の制作を始めました。メンバー自ら木工品制作技術を習得し、現在では数々の木工製品を「ぱびよん」で販売したり、イベント・注文による制作販売を行っています。

■直川発！新たなチャレンジ

キャンプ場の経営、なばっこ・パンの製造販売などが安定し、活動に余裕が出てきた彼女たちは、さらなる挑戦を開始しました。

地元直川の活性化やPR、また冬のキャンプ場に集客するという声が高まり、平成20年度からは地元の自然食材を生かした料理を始め、4月には山菜料理の試食会を開きました。イノシシやシカを使うなど珍しい食材も多く、地元の食材を利用した料理は大変好評だったようです。今後も直川料理を定期的に続けていく予定だそうです。

その他、グループでは、地元直川で結成されている「かぶとむしの村を創る会」とともに植樹イベントを開催したり、親子対象のシイタケの駒打ち体験、また中学生



夏休みには小学生対象の木工教室を開催

また、夏休みには小学生対象の木工教室も開催し、木のぬくもりを楽しみながら伝えています。

■譲り受けた設備を工夫して収益
平成14年からは、別府のからしシイタケの製造工場より譲り受けた機械を利用して、「なばっこ」（からしシイタケ）の製造販売を

始めました。地元産の小麦粉を使い、なばっこをあんにした「なばっこ饅頭」も好評です。

また、からし漬けにする前段階のものを出荷するなど販売先のニーズに合わせた提供が行える柔軟な体制も整っています。

また、佐伯市内のパン店の製造道具一式を譲り受け、平成19年よ



オリジナル商品「なばっこ」

りパン店主の指導付きでパン工房を開始しました。使用する小麦は地小麦100%で、地域に溶け込んだ活動をしています。

さらには、様々な活動の中で製造した地元直川の商品をより多くの人に知って欲しい、味わって欲



大分駅で出張販売。直川をPR

しいという気持ちが高まり、一昨年11月からメンバーが大分市へ出向き販売を始めました。大分駅構内でも毎週火曜日に出店しており、商品が午前中には完売してしまうほど好評です。またこの販売をきっかけにお客様も増え、東京への冷凍直販なども行うようになりました。



地元の素材を活かした「直川料理」

の職場体験、グループの活動に興味を持った団体などの視察の受け入れなどを積極的に行っています。活気あふれる女性林研なおかわは、今後ますます新しいことに挑戦していつてくれることと期待も大きく、目が離せません。

(南部振興局森林・林業班)

笠置千晶・森迫常徳